

令和元年東日本台風による洪水に対応した河川整備とともに、流域治水の取り組みを盛り込みました。

- 今後概ね30年間の河川整備内容を定めた河川整備計画を令和4年12月14日に変更しました。
- 変更した計画に基づき、日本一長い信濃川の上流から中流、下流まで、段階的かつ着実に河川の整備を進めていきます。

### 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

堤防整備、河道掘削等の対策の加速化に加えて、雨水、流水の貯留機能の拡大を図っていきます。

**● 遊水機能を有する土地の保全**  
沿川の遊水機能を有する土地の保全に向けて、関係者のご理解の下、土地利用規制や災害危険区域の指定に向け関係機関等への技術的支援を行います。

**● 気候変動を踏まえた河川整備基本方針の見直し**  
気候変動による降雨量の増加等を考慮し、信濃川水系の河川整備の基本となる事項を定めた河川整備基本方針の見直しに向けて検討を行っていきます。

**● 既存ダムの洪水調節機能の強化（事前放流の推進）**



令和3年8月出水時の事前放流の様子

**● 田んぼダムの取組推進**



田んぼダムの取組（新潟県内）

**● 農業用ため池による貯留**



浅川ため池群（長野県長野市）

**● 雨水貯留施設の整備**



雨水貯留施設（新潟県長岡市琴平地先）

### 被害対象を減少させるための対策

浸水の恐れのある区域で土地利用規制を設けるなど、浸水に対して安全な場所への誘導を図っていきます。

**● 土地利用規制と輪中堤による家屋浸水対策**



千曲川 輪中堤（長野県中野市古牧地先）

### 被害の軽減、早期復旧復興のための対策

土地リスク情報の充実や住民の避難体制強化（タイムラインの作成支援、普及）等を進めていきます。

**● マイ・タイムライン（一人一人の避難行動計画）**

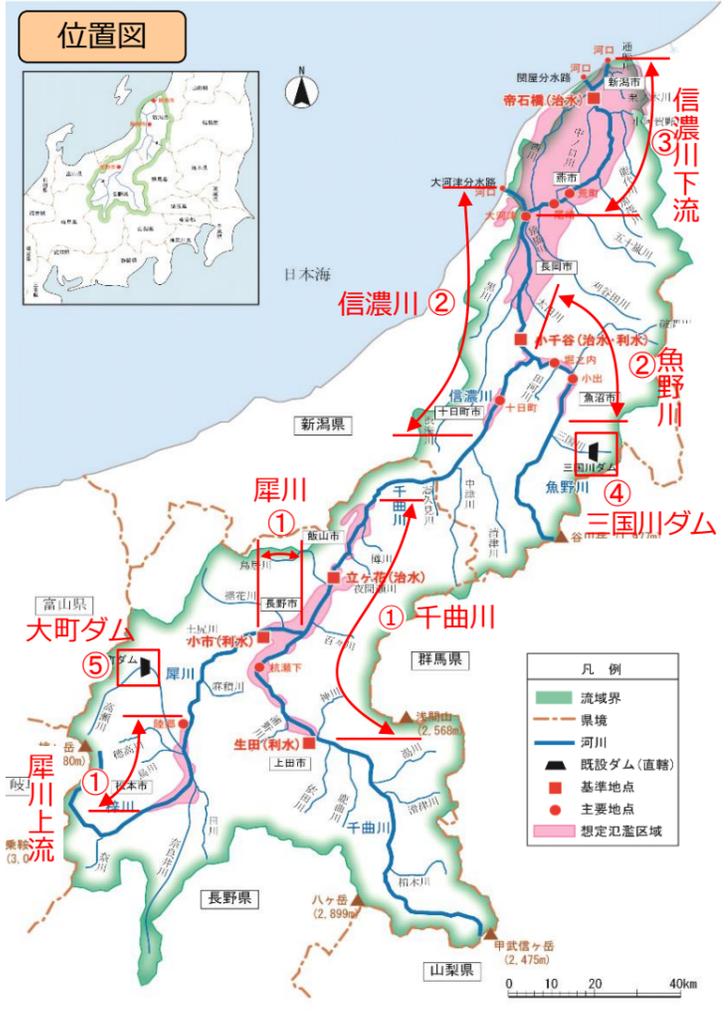


マイタイムライン講習会状況（新潟県燕市）

**● コミュニティタイムライン（地域単位の避難行動計画）**



長沼地区コミュニティ・タイムライン（長野県長野市）



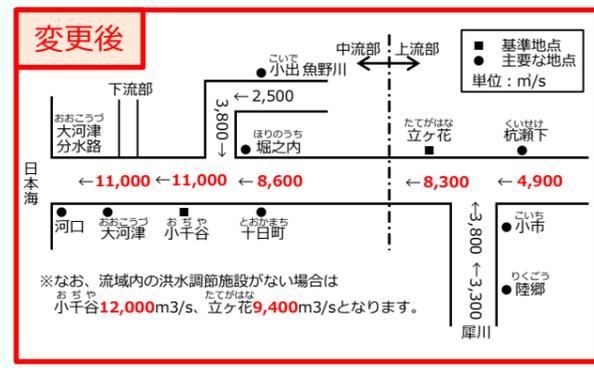
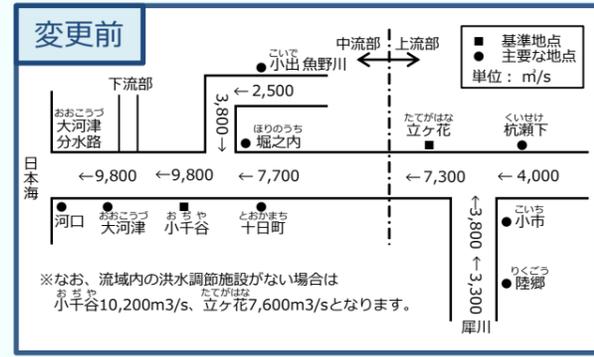
- （問合せ先）  
国土交通省 北陸地方整備局
- 河川部河川計画課  
Tel 025-280-8958  
（河川計画課直通）
  - ① 千曲川河川事務所  
Tel 026-227-9434  
（流域治水課直通）
  - ② 信濃川河川事務所  
Tel 0258-32-3243  
（流域治水課直通）
  - ③ 信濃川下流河川事務所  
Tel 025-266-7319  
（流域治水課直通）
  - ④ 三国川ダム管理所  
Tel 025-774-3015
  - ⑤ 大町ダム管理所  
Tel 0261-22-4511

計画変更の詳細は、下記のホームページより本文、附図をご覧ください。  
<http://www.hrr.mlit.go.jp/shinage/shinano-plan/>



## POINT 1 甚大な被害が発生した令和元年東日本台風による洪水等に対応

- ▶ 令和元年東日本台風による洪水（令和元年10月12～13日）では、上流部で観測史上最大の流量を観測し、堤防決壊や浸水被害が発生しました。
- ▶ 令和元年東日本台風による洪水と同規模の洪水が発生しても浸水被害の軽減を図るため、上流（立ヶ花）、中流（小千谷）で現行計画から目標流量を引き上げ、目標達成に必要な整備内容を盛り込みました。また平成26年（2014年）の計画策定から9年が経過し、新たな整備内容を一部追加しました。



## POINT 2 「流域治水」の取り組みを計画に位置付け

- ▶ 計画規模を上回る洪水に対して被害軽減を図るため、流域のあらゆる関係者による「流域治水」の取り組みを計画に盛り込み、防災・減災対策を推進します。
- ▶ 具体的には、令和3年3月にとりまとめた、「信濃川水系流域治水プロジェクト」における
  - ・ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
  - ・ 被害対象を減少させるための対策
  - ・ 被害の軽減、早期復旧復興のための対策
 に取り組みます。



# 信濃川水系河川整備計画変更

# POINT 1 甚大な被害が発生した令和元年東日本台風による洪水等に対応

上流部（千曲川）、中流部（信濃川）では、令和元年東日本台風による洪水等に対応するため、河道掘削や遊水地整備や大町ダム等再編事業、大河津分水路「令和の大改修」を行います。  
下流部（信濃川下流）では、戦後最大規模の洪水等に対応するため、河道掘削、堤防整備に伴う橋梁架替等を行います。

## 上流部 千曲川

### ◎令和元年東日本台風を踏まえた整備を新たに位置付け

#### 1) 狭窄部（川幅が急に狭くなる場所）等の河道掘削

立ヶ花地区などの狭窄部の上流では、洪水時に水位が高くなりやすく、堤防決壊のおそれがあり、必要な川の断面積を確保するための掘削を行うことで洪水時の水位を下げ、堤防決壊による浸水被害を防ぎます。



たてがはな立ヶ花狭窄部 航空写真 (長野県中野市)



#### 2) 遊水地の整備を位置付け

千曲川沿川に5箇所の遊水地を整備し、洪水を一時的に貯留することで、遊水地下流の水位低下を図り、堤防決壊による浸水被害を防ぎます。併せて千曲川、犀川等で必要な川の断面積を確保するための掘削、堤防整備を行います。

#### <遊水地整備（千曲川）>



※遊水地形状は、現地状況等により変更となる場合があります。

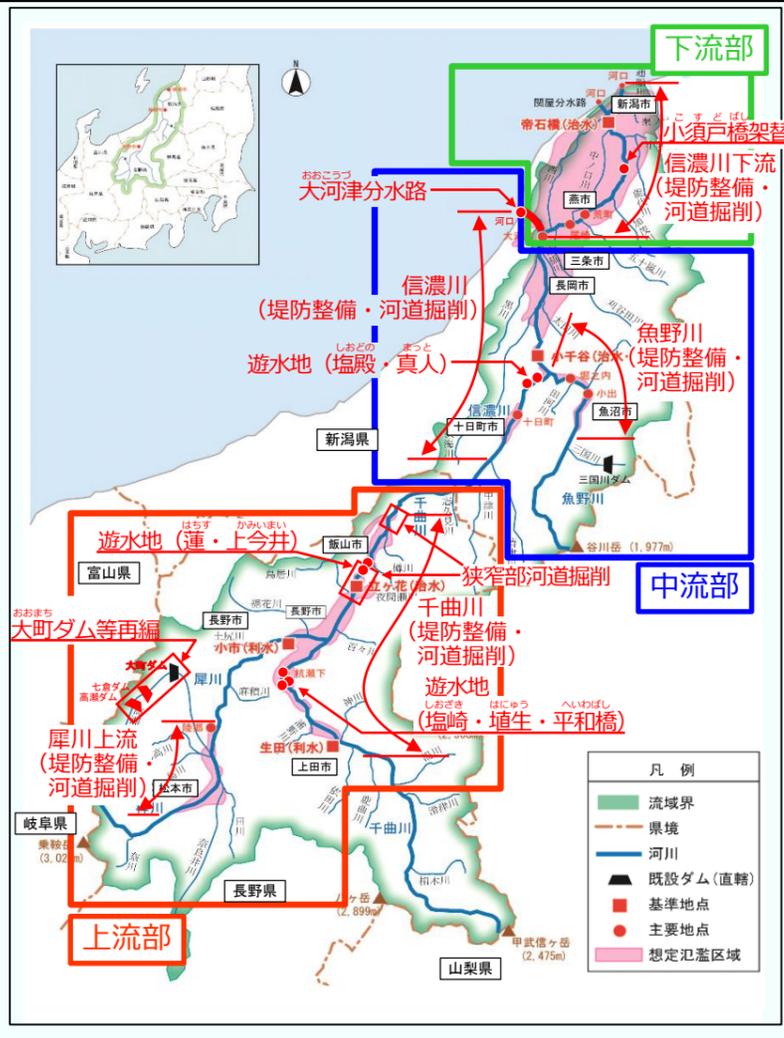
### ◎大町ダム等再編事業

平成18年7月洪水では、大町ダム（国土交通省）、高瀬・七倉ダム（東京電力）の3つのダムが特例操作により連携して洪水を貯留し、犀川の水位低下により洪水被害の軽減が図られました。

今後、新たに洪水が発生した場合でも、3つのダムが連携して洪水を貯留するための洪水調節方式の見直しと、ダム湖への大量の土砂流入が課題である高瀬ダムの堆砂対策をセットで行う、「大町ダム等再編事業」を推進し、洪水時の水位低下を図ります。



大町ダム等再編事業に関する3ダム (長野県大町市)



## 下流部 信濃川下流

### ◎戦後最大規模の洪水に対応した堤防整備、河道掘削

信濃川下流に架かる小須戸橋右岸は、堤防の高さと断面が不足しているため、堤防整備に伴う小須戸橋の架替を新潟市と連携して推進し、河道掘削と併せて堤防決壊による浸水被害を防ぎます。



(現)小須戸橋と(新)小須戸橋の位置図 (新潟市秋葉区・南区)



小須戸橋右岸の堤防高・断面不足箇所 (新潟市秋葉区)

## 中流部 信濃川

### ◎令和元年東日本台風を踏まえた整備を新たに位置付け

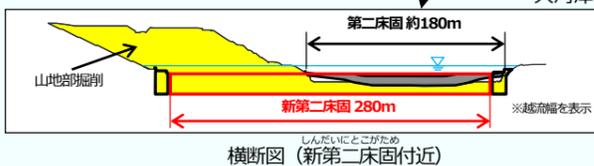
#### 1) 大河津分水路「令和の大改修」事業区間の延伸

大河津分水路「令和の大改修」は、平成27年度の着手当時の戦後最大規模である昭和56年8月洪水と同規模の洪水を安全に流すことを目的に、河口部の3.3km区間で川幅を約100m広げる事業としてスタートしました。

令和元年東日本台風による洪水の流量は、昭和56年8月洪水を上回ったことから、新たな戦後最大規模の洪水に対応するため「令和の大改修」の事業区間を3.3→8.2kmに延伸し、河川敷の掘削等を追加で行います。



※掘削形状は、現地状況等により変更となる場合があります。



横断面 (新第二床固付近)



横断面 (大河津分水路 3.0k 付近)

#### 2) 遊水地の整備を位置付け

信濃川沿川に2箇所の遊水地を整備し、洪水を一時的に貯留することで、遊水地下流の水位低下を図り、堤防決壊による浸水被害を防ぎます。併せて信濃川、魚野川等で必要な川の断面積を確保するための掘削、堤防整備を行います。

#### <遊水地整備（信濃川）>



※遊水地形状は、現地状況等により変更となる場合があります。

